

現 評

- 現業評議会本部役員と組合本部執行部との意見交換
- 現業レクの実施

現業組合員が抱える課題を本部と共有

組合本部執行部と意見交換実施

現業評議会本部役員（現評役員）は、9月13日（金）に、組合事務所がある旧中村区役所庁舎会議室にて、現業組合員の賃金水準改善、行政職との格差是正等、組合本部と一体となって、要求改善の取り組みを図っていくため、組合本部執行部と意見交換を行いました。

この会では、現評役員から、組合員の抱える課題（正規職員の確保、賃金水準の改善、人事評価制度、定年延長を踏まえた働き方、任用）等の改善に向け、当局に強く働きかけるよう、支援を訴えました。

組合本部執行部へ支援を訴え

「正規職員の確保」

退職等により生じた欠員は、確実に正規職員の確保を

「当面正規職員で行う業務」と位置づけられている現業職場においては、公共サービスの維持と業務の質を保つため、退職等により生じた欠員は、正規職員を配置し、確実に確保するよう、当局に強く働きかけて

ほしい。

現在、現業職員は全体で100名を割り込んでいます。農業関係や動物愛護指導員、自動車運転手など、現業職員の新規採用はされているが、公募しても現場作業で敬遠される業種であることに加え、それに見合う給料水準となっていないことから、なかなか人が集まらず、長期間欠員が続く場合もある。

「賃金水準の改善」

「早期の主査級昇任」「主任級要件の緩和」が課題

現業組合員の賃金水準・処遇改善として、重点課題である「早期の主査級昇任」「主任級要件の緩和」とあわせ、定年年齢の段階的引き上げや、人事院による「給与制度のアップデート」の検討など、今後、現業組合員の賃金や働き方に大きな影響を及ぼすことが懸念される。現業職員全体の賃金水準の底上げを図るよう当局に強く働きかけてほしい。



現業組合員の課題を組合本部に訴える現評役員（写真左）

<意見交換会参加メンバー>

- ◆現評本部役員・・・
田邊議長、白頭副議長
下野常任委員、日比野常任委員
- ◆組合本部執行部・・・
田中委員長、石原副委員長
早川副委員長、谷口書記長
後藤書記次長、河村政策部長

現業職員は中途採用者が多く、30歳代後半で採用された場合、主任級選考で県歴10年の要件があるため、50歳代近くにならないと主任級に上がれず、主査級に昇任できないまま定年ということもある。主任級要件の緩和は現評として重点課題であり、解決をしなければいけない課題である。

↓（組合本部執行部）高年齢職員の給与の課題として、給料表の最高号給到達や55歳昇給停止が要因としてある。職務職階制度のもと、昇任しない給料表が上がっていかない構造なので、早期の昇任・昇格が解決すべき課題と言える。

（裏面に続く）

「人事評価制度」

現業組合員にとっても、士気を向上させる制度に

人事評価制度については、職員の人材育成を目的に個々の資質向上を図るものであることから、公平性、透明性、客観性、納得性を確保し、現業組合員の士気を向上させる制度とするよう、当局に強く働きかけてほしい。

現業業務は、日々業務で目標や成果が出しにくい。本当に正当な評価がされているのか不安に思っている組合員が多い。

↓（組合本部執行部）人事評価制度そのものに対して組合として交渉はできないが、制度が現業職員にとっても、公平、公正、納得できる制度としていく必要がある。

「定年延長を踏まえた働き方・任用」

65歳まで安心して働けるように

定年年齢の段階的引き上げにより、現業組合員の高齢化が一層進む。安心、安全に働き続けることができよう、働き方の検討や任用の見直し、年齢構成等のバランスを踏まえた配置とするとともに、任用職種を幅広く設定した配置、業種間を超えた現業職場の任用の検討を行うよう、当局に強く働きかけてほしい。

現業業務は体力を必要とする業務の比率が高く、60歳以上の高齢期を考えた場合、体力面の不安や、長時間通勤による事故の危険性など心配する意見が出されている。

65歳まで安心して継続して働き続けられるように、現業職場間での職種変更など働き方の選択肢を広げてほしい。

「役員組合活動」

組合会議のあり方の検討を

現業評議会だけの問題ではないが、現評の取り組み以外で、組合本部の会議への参加など、相当の年休を

使用している。自分のために使える休みがなくなり、これでは役員のなり手もいなくなるのではないかと考える。

↓（組合本部執行部）組合の会議のあり方について、引き続き試行しながら実施していきたいと考える。今後も役員の立場でいろいろ意見を聞かせていただきたい。

最後に、現評役員田邊議長、組合本部執行部田中委員長から、それぞれ意見交換会の総括を行いました

【田邊議長総括】

今年は、多くの職場で現業職場集会を開催し、組合員から意見を聞いたが、要求全体にはなかなか反映していかない。だからこそ本日こうした機会を設け、組合本部執行部においても、現業組合員の実情を改めて認識していただいた。

要求がなかなか実現せず、組合員にあきらめ感があるのも事実だが、なんとかモチベーションを上げていくよう本部と一体となり、組合員が抱える課題を解決し

ていきたい。

現業組合員の組織率は9割を超えており、組合への期待がまだあると考える。現業評議会の活動は本部の強力な支援が必要であり、しっかりと支えていただきたいと考える。

【田中委員長総括】

本日は、現業組合員を代表する現評役員から、組合員が抱える課題をしっかりと聞かせていただいた。その中で、組合への期待という言葉も出していただいた。

組合として取り組むべきことはしっかりと取り組んでいく。本日の意見交換会で出された意見をしっかりと受け止め、現業評議会役員と一体となって、課題解決に向け、引き続き取り組みを進めていきたい。

組合本部執行部との意見交換会に先立ち、9月13日には保健医療局との意見交換会も実施しました。次号の「現評」で概要を掲載します。

2024年度現業レク

トヨタ産業技術記念館見学とホテルディナービュッフェで贅沢なひととき

8月24日(土)、現業交流レクとして、「トヨタ産業技術記念館見学と豪華ホテルディナービュッフェ&飲み放題」を実施しました。

レク参加者は15名。車好きにはたまらない愛知の人気スポット「トヨタ産業技術記念館」をガイド付きで見学。

その後は笹島にある豪華ホテル(ストリングスホテル名古屋)のディナービュッフェで、ローストビーフ、握りたてのお寿司、揚げたての天麩羅を始めとする豊富なメニュー&飲み放題で、夏の夜のひとときを贅沢に過ごし、交流を深めました。

